

開催地名：沖縄県豊見城市	
開催日時	令和2年11月29日（日） 14：00～15：30
開催場所	豊見城市立中央公民館
語り部	菅野 澄枝 （宮城県仙台市）
参加者	自治会長、地域住民 約100名
開催経緯	<p>沖縄県においては、台風以外に大きな災害が発生していないため、本土と比較して市民の防災意識が希薄である。そのため、そのような市民意識を反映する様に、新たな自主防災組織がなかなか結成には至らず、自治会における防災意識の高揚が喫緊の課題である。今回、語り部講演を実施することにより、自主防災組織の結成と活動促進につなげたい。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、震度6強を観測した私の住む仙台市宮城野区岩切地区は、海岸線から10キロメートル程度内陸にあるにもかかわらず、川を遡ってきた津波による浸水の被害も一部で受けた。また、近隣の住宅地では、全壊や半壊が多数発生し、ブロック塀も多くが崩壊した。私の家も大規模半壊の被害を受けた。</p> <p>（2）岩切・女性たちの防災宣言</p> <p>東日本大震災が起こるおよそ9か月前の平成22年6月に、仙台市宮城野区の総合防災訓練で「岩切・女性たちの防災宣言」が発表された。当時の女性区長が「日中に大地震が発生したら、家にいるのは女性が多い。女性の視点で防災対策を進める意義は大きい。」と提案したのがきっかけだった。宣言は、仕事で夫や父親が家にいない状況での心の備えを促す言葉で構成され、「私たちは、ここ岩切でみんなが安心して暮らすために、自分たちでできることを考え行動します。大切な人の命を守るために。この地域で育つ子供たちのために。」と結ばれている。</p> <p>翌年に東日本大震災が発生し、大勢の被災者が避難を余儀なくされた非常事態の中で、防災宣言を作ったメンバーは自然と行動を起こした。そこから、仙台市の地域防災リーダーという動きも始まった。</p> <p>（3）仙台市地域防災リーダーとは</p> <p>地震や豪雨災害などの自然災害による被害を軽減するためには、行政はもとより、地域住民同士による「共助」の力が求められることから、市民一人ひとりの防災への取組みを一層促進させる必要がある。このような観点から、仙台市では平成24年度より地域防災の担い手を育成する目的で「仙台市地域防災リーダー（SBL）養成講習」を開始した。仙台市地域防災リーダー（SBL）には、</p>

町内会長などを補佐しながら、平常時には地域特性を考慮した防災計画づくりや効果的な訓練の企画運営、災害時には地域住民の避難誘導や救出・救護活動の指揮を行うなどの役割を期待されている。SBLになるには、2日間の養成講座（実技を含む）を受ける必要があり、令和2年3月現在、合計715名（うち女性181名）が登録されている。

私自身もSBLとして活動を行っている。例えば岩切地区では、人をつなぐ・地域をつなぐことの重要性について研修会を開催し、「女性防災活動」の発表やわがまちに起こりうる災害像をより具体的にイメージする「DIG」（住民参加型災害図上演習）、気づきを学ぶ「クロスロードゲーム」を実施したり、町内会ごとに分けたグループにそれぞれの地域の地図を準備し、防災マップの作成方法を指導した。また、地域の防災意識の向上と世代を超えた交流を目的に、子ども達と一緒に「いわきり防災かるた」の作成を行うなど、次の世代にも震災の経験と教訓を語り継ぎ、地域の方々に「共助」の大切さを伝える活動も行っている。

（4）最後に

地域での防災活動は、長く続けていくことが大切である。長く続けていくために、以下の5点を意識して活動していただきたいと思う。

- ・無理なく楽しくやっといこう
- ・自分のための学びを積み重ねよう
- ・大切な人を守ろう、自分を守ろう
- ・大切な人を増やしていこう
- ・この思いを広げていこう



開催地より

東日本大震災の被害状況とともに、岩切地区の取組や仙台市地域防災リーダーの取り組みについてわかりやすくご説明いただいた。自主防災組織未結成の自治会役員の方々の防災意識の向上につなげるとともに、まずはできることから始めていきたい。